シート１　【本人視点から考える原因（課題に**影響を与えていると考えられる視点**にチェック）】（認知症の人）

【性格の視点】

　性格は、認知症の人の行動に大きく影響を与える。また、認知症により性格の変化が見られることもあり、現在の性格にだけ着目するのではなく、これまでの性格を知ることはケアの大きな手がかりの一つになる。

【性格のチェック】

□　認知症になる前の性格の影響

□　認知症になった後の性格の変化の影響

□　されて、言われて嬉しいこと（喜び）の影響

□　されて、言われて嫌なこと（悲しみ）の影響

【病気や健康状態の視点】

　認知症の原因となる病気を知っていることで、特徴的な中核症状の理解につながる。また、認知症による影響だけでなく、発熱や脱水、便秘等による影響でＢＰＳＤが誘発されている可能性を理解しておくことが大切である。

【病気や健康状態のチェック項目】

□　持病や既往歴の影響

□　健康状態の影響（食事、排せつ、バイタルサイン等）

□　認知症の原因となる病気の影響

（アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、

脳血管性認知症、前頭側頭葉型認知症など）

□　禁忌事項の影響（食事、薬など）

□　本人に対する薬の影響、副作用の影響

原因分析結果

原因分析結果

【興味・関心・趣味・楽しみの視点】

　興味、関心、趣味や楽しみを知っていることで、本人の自発的な行動や意欲を引き出すことができるかもしれない。

【興味・関心・趣味・楽しみのチェック】

□　興味、関心の影響

□　趣味でしていた事、楽しみにしていたことの影響

□　本人の趣味や楽しみが生活の中にはないこと

【変調（いつもに比べ調子が変わること）の視点】

何に起因して変調が起こっているのか探ることで、状態の改善につながることもある。

【変調のチェック】

□　傾眠、意識障害、せん妄、幻覚、興奮状態、

鬱状態などの影響

原因分析結果

原因分析結果

【中核症状（記憶・理解・判断・見当識・出来る事・出来ない事）の視点】

記憶・理解・判断・見当識・出来る事・出来ない事の視点の理解がないと、過剰介護やできないことを押し付けるなど本人の能力を奪ったり、強度のストレスを与えることになる。特に記憶の程度が把握できていないと、繰り返される訴えや行動に対し誤った対応をとってしまう。また、過去の記憶に働きかけることで意欲を高めたり、安心や満足に繋げることもできる。

【中核症状のチェック】

□　記憶力（どの程度まで記憶が残っているか）の影響

□　思い出に残っている大切な記憶の影響

□　理解力、判断力の影響

□　見当識（時間、場所、人の認識の程度や具合）の影響

□　知的機能による「出来る、出来ない」の影響

□　身体機能による「出来る、出来ない」の影響

□　その時の状況の違い（昼と夜、なじみの場所となじみ

のない場所）での、「出来る、出来ない」の影響

【なじみの物の視点】

　慣れしたしんだ物や私物があることで、自分自身に対する認識が高まったり、安心感を生み出すことができる場合がある。

【なじみの物のチェック】

□　本人が慣れ親しんだ家具や私物の影響

□　本人が慣れ親しんだ家具や私物が身近にないこと

原因分析結果

原因分析結果

【習慣（日課・食事・排泄）の視点】

　一見すると不可解な行動も、生活習慣に照らし合わせてみることで、合点がいくこともある。理解できないと一蹴する前に、生活習慣を振り返ることが重要である。

【習慣（日課・食事・排泄）のチェック】

□　本人の日課の影響

□　本人の食事の習慣の影響（和洋食、食事のスタイル）

□　本人の排泄の習慣の影響（タイミング、和洋式）

□　生活習慣に基づいた介護が行われていないこと

原因分析結果

【意欲の視点】

　意欲の低下は単純に気持ちの持ちようばかりではなく、中核症状としても起こる。その結果として引き起こされている無為、無関心の状態を問題として捉えられないと、活動性の低下や廃用症候群の引き金になる危険性がある。

【意欲のチェック】

□　意欲の程度の影響

□　時間の経過にともなう意欲の変動による影響

原因分析結果

シート２　【本人視点から考える原因（課題に**影響を与えていると考えられる視点**に）】（認知症の人）

【慣れ親しんだ家事（炊事・洗濯・掃除・育児・裁縫など）の視点】

家事は身体で覚えた手続き記憶（小脳に蓄積）である。小脳は認知症による影響を受けにくく、認知症がある程度進行しても、能力として残りやすい。慣れ親しんだ家事を通して、生活に自信を取り戻せる可能性がある。

【慣れ親しんだ家事のチェック】

□　慣れ親しんだ家事の影響

□　慣れ親しんだ家事の方法（その人のやり方）の影響

□　慣れ親しんだ家事をする場面がないこと

原因分析結果

【信仰の視点】

　生活習慣に溶け込んでいた寺社仏閣や仏壇、神棚へのお参りなどを生活の中に取り入れることで安心につながる場合がある。

【信仰のチェック】

□　信じている宗教の影響

□　仏壇や寺社仏閣へのお参りの習慣の影響

□　信仰の習慣が生活に取り入れられていないこと

原因分析結果

【仕事・役割・こだわりの視点】

　本人がどのような仕事をしてきたのか、どのような役割を担ってきたのか、どのようなこだわりを発揮していたかが分かれば、行動の理由をひもとくカギが見えてくることがある。また、残された能力に応じた役割を担ってもらうこともできる。

【仕事・役割・こだわりのチェック】

□　携わってきた仕事や家庭や地域での役割の影響

□　仕事や役割の中でのこだわりの影響

原因分析結果

【好きな音楽・テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・嗜好品などの視点】

　生活の中に自然な形で取り入れることで、過去の記憶を呼び起こしたり、生活に楽しみや安心を与えることができる場合がある。

【好きな音楽・テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・嗜好品などのチェック】

□　好きな音楽・テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などに

生活の中で触れる機会がないこと

□　嗜好品の提供がないこと

原因分析結果

シート３　【支援者視点から考える原因（課題に**影響を与えていると考えられる視点**にチェック）】（スタッフや事業所）

【認知症に関する正しい知識の視点】

　職員の知識の有無は認知症介護の質に大きく影響を及ぼす。知識があることで、認知症の人の行動の理由と原因を考える幅が大きく広がる。

【認知症に関する正しい知識のチェック】

□　パーソンセンタードケアについての理解がないこと

□　アルツハイマー、レビー小体型認知症など代表的な認知症を引き起こす病気の症状の理解がないこと

□　中核症状とBPSDの違いと関係性の理解がないこと　　　 □　脳の働き（機能）の理解がないこと

□　薬（進行を抑える薬、向精神薬）に関する知識がないこと □　人的環境の影響の理解がないこと

□　物的環境の影響の理解がないこと　　　　　　　　　　　 □　倫理、権利擁護に対する理解がないこと

原因分析結果

【認知症に関する正しい技術・関わりの視点】

　職員の正しい技術・関わりが安心感と安らぎを与える。正しい技術と関わりを知らなければ、認知症の人と職員の双方が傷ついたり、悲しい想いをする危険性が高くなる。

【認知症に関する正しい技術・関わりのチェック】

□　コミュニケーション技術の習得が不充分、あるいはできていないこと（言語・非言語を含む）

□　認知症の人が求める安心できる関わりの理解と活用ができていないこと

※安心できる関わり…（微笑みの交わし、和らぎの話しかけ、敬愛的な挨拶、暖かいまなざし、

うなずきのしぐさ、ゆっくり合わせ聞く耳、手のふれあい、はっきり優しくわかるように話す、

リラックスできる場で隣に座って話し合う、気分や態度を察して対応・・・など）

□　尊厳を持った関わりができていないこと（子ども扱いする、目上の人として接しない・・・など）

原因分析結果

【チームケアの視点】

　認知症ケアは他職種連携でのチームケアが求められる。チームが一つになるためには、理念という共通のゴールが必要であり、その理念に基づいたケア目標が定まっていることが大切。また、チーム間での円滑な情報のやり取りと共有があることで、チーム力が発揮される。

【チームケアのチェック】

□　理念が定まっていないこと　　　　　　　　　　□　職員間のコミュニケーションが不良

□　理念がカタチだけで、職員に浸透していないこと□　職員間の情報の共有が図れていないこと

□　ケア目標が定まっていないこと　　　　　　　　□　チームワークの発揮がなされていないこと

原因分析結果

【事業所の物理的環境（居住環境）の視点】

　認知症の人は住まう環境から大きな影響を受けている。適切な環境が整うことで認知症の人の混乱や不安は大きく軽減され、残された力の発揮や意欲を引き出すことにつながる。

【事業所の物理的環境（居住環境）のチェック】

□　音（ＴＶ、物音、心地よい音など）に対する配慮がないこと

□　視覚情報に配慮されていないこと

□　臭いに対する配慮がないこと

□　くつろげる場所、落ち着ける場所が存在しないこと

□　家事を行える環境（流し、洗濯場など）が整っていないこと

原因分析結果

シート４　【支援者視点から考える原因（課題に**影響を与えていると考えられる視点**にチェック）】（スタッフや事業所）

【職員自身の性格の視点】

　認知症介護において職員の性格も大きく影響を与える。大切なことは、自分がどのような性格なのかをしっかり認識し、介護場面では長所を発揮し、ネガティブな性格は押さえるなど、自分の性格をコントロールすること。

【職員自身の性格のチェック】

□　冷静、明るい、温和、短気など自分自身の性格を

認識できず、コントロールもできていないこと

【運営の視点】

　運営方針がしっかりしていれば安心して働け、ケアに集中することができる。

【運営のチェック】

□　運営方針が定まっていないこと

□　職員が安心して働ける環境になっていないこと

原因分析結果

原因分析結果

【雇用状況の視点】

　介護業界全体の課題として人材不足がある。雇用状況により一人ひとりにかかる労働の比重と介護の質が変動する。

【雇用状況のチェック】

□　正規職員とパート職員の割合が適正ではないこと

□　専門職が揃っていないこと

□　職員が充足していないこと

【地域貢献・地域との連携・地域からの信頼の視点】

　地域とのつながりが密であるほど。利用者の活動、行動の幅が広がり、利用者の見守り支援など、いざという時に頼ることができる。

【地域貢献・地域との連携・地域からの信頼のチェック】

□　地域住民との交流や地域行事への参加がないこと

□　地域住民の来訪がないこと

□　地域へ利用者とともに出ていく機会がないこと

□　認知症カフェの開催など地域へ施設を開放していない

原因分析結果

原因分析結果

【職員教育・目標管理・評価の視点】

　人材育成、教育の場面がしっかり確保され適切な目標管理と評価が行われていると、知識と技術を効果的に習得し、成長できる。

【職員教育・目標管理・評価のチェック】

□　職員教育（ＯＪＴ）の場面が整っていないこと

□　職員教育（Ｏｆｆ－ＪＴ）の場面がないこと

□　経験年数や役職に応じた研修の場面がないこと

□　適切な目標管理がされていないこと

□　適切な評価の指標と評価がされていないこと

【ボランティアの受け入れの視点】

　ボランティアの受け入れがある開かれた事業所だと、職員だけで補えない関わりや活動の幅が広がる。

【ボランティアの受け入れのチェック】

□　ボランティアを積極的に受け入れていないこと

□　継続したボランティアの受け入れがないこと

原因分析結果

原因分析結果

【職員自身の経験の視点】

　知識と技術を活かすためには、実際の介護経験が必要。また、その経験での試行錯誤が、正しい技術と関わりの獲得につながる。

【職員自身の経験のチェック】

□　認知症介護に携わってきた十分な経験がないこと

【事業所の物理的環境（立地環境）の視点】

　事業所の立地環境を活かす方法を考えることも大切である。人里離れた山の中や郊外であれば、周囲の自然や畑などの活用ができるかもしれない。市街地であれば、金融機関、商店、住民などの社会資源や街の住民が大きな力になる可能性を秘めている。

【事業所の物理的環境（立地環境）のチェック】

* 周囲の環境を活かしきれていないこと

原因分析結果

【職員自身の性別・年齢の視点】

　性格、年齢によっても認知症の人が受ける影響に違いがある。どうしても女性の方がうまくいく、年配の方がうまくいく場合などもあるので、場面によっては、臨機応変に関わる介護者が入れ替わることも必要である。

原因分析結果